

健康のかけはし

大田病院の「理念」

- 私たちの病院は
- ① だれでも安心してかかる病院
 - ② 心の通いあう、あたたかい病院
 - ③ 地域の人々と共に歩む病院
- であることをめざします。

No. 75
2022年4月26日

大田病院

〒143-0012 東京都大田区大森東4-4-14
☎ 03-3762-8421 発行責任者 渡邊 峰人

大田病院は基幹型
臨床研修病院です



新人職員を迎えて

法人看護部長

牛澤多恵子

新型コロナウイルス感染症への不安を抱えたまま早2年が過ぎました。そして世界ではロシアのウクライナへの一般市民をまきこむ武力行使が行われ、今日も罪なき人々の命が奪われています。一人ひとりが大切にされ、「命の重さはみな同じ」という民医連の理念がいまほど輝くときはないのではないかと、桜の花を見上げながら心から感じずにいられません。

今年も満開の桜の中、その理念に共感した22名の新しい職員を城南法人へ迎えることができました。大田病院に医師3名、看護師11名、臨床検査技師1名、リハビリセラピスト2名、大田歯科に歯科衛生士1名、歯科技工士1名、大森中診療所に医療事務1名、ゆたか診療所に医療事務1名、大森薬局に薬剤師1名です。

昨年に引き続き、今年入職の看護師たちは新型コロナウイルス感染症の波に影響を受け、学業や実習が大幅に制限されたまま卒業しました。実習は午前だけ、3日だけ、ペーパーペイシエント、学校の先生が患者役になり実習など、実際に患者さんに接することがかなり少ない状況で、入職前の面談では患者さんにしつかりケアや技術が提供できるのだろうかという不安の声がたくさん聞かれました。またインターンシップもできず、実際に病院の見学に来ることもできず、採用の面接までオンラインという状況の中ではありましたが、大田病院の理念や活動に共感し入職を決意してくれたのです。新入職員が自分らしさを失わず、のびのびとしゃやかに成長できるように応援していきたいと思えます。

新入職員を迎えるとともに、少しずつ代替わりの時期でもあります。脈々と受け継がれる看護へのスピリット「患者の立場に立ち患者の要求から出発し患者とともにたたかう」を新入職員や現在働いている職員にも伝え、「誰のために、何のために」ということを問い続けながら、地域の方たちが何を求めているかを軸に据え、それにこたえていける病院でありたいと思っております。

個人情報保護委員会の取り組み

当院の個人情報保護委員会では、職員への個人情報保護についての学習、インシデントが発生した際の対応、カルテ開示の依頼があった際の対応等を行っています。病院での個人情報保護は、「個人情報保護法」「個人情報保護に関わる医療者向けガイドライン」に従って作成されています。今年も個人情報保護法の改正があります。改正に沿って運用をすすめてまいります。他の病院の事例ですが、コンピューターウイルスの感染により、電子カルテが乗っ取られ全ての個人情報が失われ億単位の被害も発生しています。国からも注意喚起がされており、病院として対応が求められています。個々人の対応としては、パスワードの管理、コンピューターを使う時の規則の厳守、受け取ったメールへの注意等があります。

病院は患者さんから重大な個人情報を預かって取り扱う立場となります。漏洩などが発生しないよう、日々注意し、学習も行っていきます。

(奥嶋 猛)



行事食への取り組みについて

栄養科から提供される365日、1日3回の食事の中で1か月に1回行事食を行っているのを皆さんはご存知でしょうか？

昨年からは、行事食がない月にはお楽しみ献立という名目で患者さんに普段とは違うメニューを提供しています。食を通じ、患者さんに季節感や旬の食材を味わい楽しんでいただくために行事食は提供されます。



1月 元旦おせち

12月24日にはクリスマスメニュー。年末には年越しそばを振る舞います。翌日に元日を控える年末が、厨房内の盛り付け業務で年一番のピーク日です。元旦はおせち料理を提供し、いつもとは違う飾りなども使用するもので患者さまからは好評なご意見

見やあたかなお礼の言葉を毎日いただけます。

そして2月には節分。3月の桃の節句では年に4回ほど登場するお刺身料理が提供されます。病院でお刺身を提供するのには珍しいかもしれません。調理師が腕を振るって捌きます。5月の端午の節句ではカツオのたたき、7月の七夕、9月に敬老の日も行事食としてお祝いをしています。



3月 ひな祭り

4月、6月、8月、10月、11月はお楽しみのメニューをお出ししています。365日かわらない時間に配膳し安心と安全を届け、温かい料理は温かく、冷たい料理は冷たく。当たり前前の



9月 敬老の日

ことですが、少しでも患者さま全員にお食事の時間を楽しめるよう努力をし、健康へのお手伝いと真心をお届けできたらと思います。

(栄養科 山崎広二)



リレートーク



透析室 臨床工学技士 中橋 幸代

臨床工学技士として働き始め、13年目を迎えました。大田病院に来てから、結婚、出産を経て、周りの方々に支えられながら8年が経ちます。医療機器の管理や透析室の業務など多岐にわたりますが、透析では患者さんとの他愛ない会話で日々活力をもらっています。外来透析では透析をして元気に帰っていただき、次の透析までまた元気に通院してもらうことが理想ですが、その当たり前の難しさを、常々感じています。お一人おひとりに日常があり、その生活を透析しながらでもできるだけ長く続いてほしいという気持ちで精進しています。暖かくなり、出会いと別れの季節ですが、我が子も今年度小学生になりました。コロナ禍でも子どもたちは遅く育っている晴れ姿をみると、この春は感慨深いものがありました。あっという間に過ぎてしまう春ですが、草木やそよ風は清々しい気持ちにしてくれますね。いろいろ乗り越えてきた分、今年度は楽しいことがたくさんできると期待したいですね。

次は4病棟の看護師、生方真裕さんです。

MRI 装置の更新について

2010年5月の大田病院の全面建て替えの際に、城南保健生協を中心とした地域の皆様のご協力でご導入したMRI装置が更新されます。おかげさまで、12年にわたり診断など医療活動に大きな助けとなりました。この場をお借りし厚く御礼申し上げます。 院長

